

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

トマトでつなぐ～日高村の交流・関係人口拡大事業計画～

2 地域再生計画の作成主体の名称

高知県高岡郡日高村

3 地域再生計画の区域

高知県高岡郡日高村の全域

4 地域再生計画の目標

4－1 地方創生の実現における構造的な課題

オムライス街道や昨年度実施した「観光物販施設村の駅ひだか施設整備事業」による来客数の増加からも、村への訪問者数が増加傾向にあると認められるが、村内には宿泊施設がなく、現状では訪問型観光しか展開できていないため、取り組みによる経済波及効果の向上が望めない状況である。そのため、多様な人が交流し営みを生んでいる状態（横の循環）を促し、都市部から日高村への移動（縦の循環）へと繋がるハブ的機能をもつ宿泊施設が必要不可欠である。また、当該施設では横の循環を促すために、既存の地域資源への誘導に加え、村民の生活の一部を切り取り価値あるものとして体験プログラムを発掘し、地域力の向上に繋げる機能を備える必要がある。

また、今まで宿泊施設がなく民間企業の参入がないことを踏まえ、事業開始当初から数年は収益が低く、赤字運用になることが想定されるため、運用にかかる支援と当該事業終了までに自立した運用が可能となるソフト事業の展開が必要となる。

4－2 地方創生として目指す将来像

本村は、県庁所在地から 16 k m と近く、村内 3 箇所の JR 駅により県内でも交通の便が非常によいにも関わらず、通過する村として県外はおろか多くの高知県民にも「日高村」として認知されていなかった。トマトのブランド化に取組み「シュガートマト」として日本一の評価（平成 29 年 7 月 31 日付け日経 MJ バイヤー調査結果）やトマトのブランド化事業の一環として実施している日高村の PR 事業「オムライス街道」（農林水産省ディスカバー農山漁村の宝の第 4 回選定事例にも選ばれる）などにより、近年、トマトの村として認知度が向上している。

今回の事業を活用することで、日高村としての認知を推進し、観光施策による経済波及効果を更に向上させるため、訪問型観光から滞在型観光にシフトすることを目的に、「泊まる」「食べる」「遊ぶ」をキーワードにした施設の運用を行う。また、キーワードごとに地域住民との交流・地場産品の地産地食・体験プログラムの提供などにより、地域力の向上を促し、関係人口の増加から地域振興を図る。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加分の 累計
事業収益総額（①～③の合計額）					
①飲食提供事業収益（客単価 800円×利用者）					
②低額宿泊事業収益（客単価 5,000円×宿泊利用者）	0.00	0.00	1,751.00	906.00	2,657.00
③体験プログラム提供事業収益（客単価 5,000 円×利用者） （千円）					
新たな体験型プログラムの発掘・ブラッシュアップ（件）	0.00	0.00	5.00	2.00	7.00
学官連携事業（①～②の合計件数）					
①高知大学を含めた県内大学との企画件数	0.00	0.00	2.00	2.00	4.00
②高知大学を含めた県内大学によるイベント支援数（件）					

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

宿泊施設の無い本村に都市圏在住者をターゲットにした低額宿泊施設を整備する。特に、都会での生活に不満や疑問をもつ方に、地域おこし協力隊のもつネットワークを活かし情報を直接届けることにより、着実に都市圏からの訪問者を増やす。また、宿泊機能に加え、本村でブランド化を進めているトマトを軸にした地産地食と住民の魅力ある生活を体験プログラムとして提供することで、愛着をもってもらう。それらと併せて、既存の取り組みや事業者、県内の高校や大学、魅力ある住民と連携し、移住定住にも繋がる事業として実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

高知県高岡郡日高村

② 事業の名称：日高村と村外を繋ぐ小さな交流拠点整備運営事業

③ 事業の内容

今回の事業は、村内事業者が実施主体（地域再生推進法人制度の活用想定）となり、地域おこし協力隊や日高村、民間事業者や地元住民などの多様な関係者と連携し、訪問型観光から滞在型観光にシフトすることを目的にした、トマトを軸に「食」「体験」「宿泊」のサービスを提供できる施設の整備および運用をするために必要な事業を展開する。

具体的には、「食」は、飲食等にかかる農産物や加工品等については、極力村内のものを使用することで、村民の地域活動への参画も促し、更なる地域活性化活動の発展にも繋げる。「体験」は、村民の生活にこそ価値があるため一部を切り取り、それを体験プログラムとして提供することで、地域住民の生活価値の拡充を目指す。「宿泊」は、都会での生活に不満や疑問を抱える方をメインターゲットにし、その方が生活基盤を保持したまま、田舎で生活できる居場所を提供することを目的に、低額の宿泊施設等を運用する。また、都会と日高村とを「人」を通じて繋げ、利用者と地元住民とがゆるくつながることで、人付き合いが負担や重荷にならない自然な関係を構築できる拠点となる施設として運用する。

その他、地方創生加速化交付金事業「まるごとイタリアンプロジェクト」の実施を踏まえ、地域の人材育成を視野にいたしたイタリアンシェフを招致した料理講座やトマト×スポーツやトマト×健康、文化などのソフト事業と運用にかかるソフト支援事業も併せて展開する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

施設機能から大きく収益を伸ばすことは難しいが、飲食事業等でランニングコストをペイすることが可能。また、宿泊部屋を含む施設の清掃等については、障がい者等に働く場所を提供している団体と提携し、就労の機会の提供とコストの削減により、大きくはない収益でも自主財源に基づく運営に努める。

【官民協働】

ソフト事業の展開については、村内事業者を地域再生推進法人へ指定し、事業者のもつネットワークをリソースに産官学民金言との連携を進める。また、企画については、県内大学との交流（外国留学生の受入なども含む）や東京でのファンミーティングを通じて村外との関係を積極的に構築する。

【地域間連携】

高知県のメイン道路である国道 33 号線、JR 小村神社駅近隣、仁淀川へアクセス徒歩 5 分の好立地を活かした連携をおこなうと共に、村内における西の入口（東は、「村の駅ひだか」）として地域間連携の窓口としても機能していくよう「宿泊」「飲食」「体験」と絡めて展開する。

【政策間連携】

本事業については、「泊まる」「食べる」「遊ぶ」をキーワードに施設運営するが、内容については既存の事業と連携するため、日高村ブランドの『トマト』を軸とした取り組みとなるようソフト事業に組み込んでいく。また、インバウンドに繋がる拠点となる取り組みも進める。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加分の 累計
事業収益総額（①～③の合計額）					
①飲食提供事業収益（客単価 800円×利用者）					
②低額宿泊事業収益（客単価 5,000円×宿泊利用者）	0.00	0.00	1,751.00	906.00	2,657.00
③体験プログラム提供事業収益（客単価 5,000 円×利用者） （千円）					
新たな体験型プログラムの発掘・ブラッシュアップ（件）	0.00	0.00	5.00	2.00	7.00
学官連携事業（①～②の合計件数）	0.00	0.00	2.00	2.00	4.00

①高知大学を含めた県内大学 との企画件数					
②高知大学を含めた県内大学 によるイベント支援数（件）					

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、３月末時点のKPIの達成状況を企画課が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

日高村総合戦略策定委員会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

※日高村総合戦略策定委員会

高知大学、日高村商工会、NPO法人日高わのわ会、農事組合法人霧山茶業組合、（株）村の駅ひだか、JAコスモス日高青壮年部、日高村自治会長会、高知銀行伊野支店、JAコスモス日高支所、高知県地域産業振興監、日高村産業環境課

【検証結果の公表の方法】

必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は毎年度、ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第５条第４項第１号イに関する事業【A3007】

総事業費 64,299 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日（３ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5－3 その他の事業

5－3－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5－3－2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7－1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を企画課が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

日高村総合戦略策定委員会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

※日高村総合戦略策定委員会

高知大学、日高村商工会、NPO法人日高わのわ会、農事組合法人霧山茶業組合、（株）村の駅ひだか、JAコスモス日高青壮年部、日高村自治会長会、高知銀行伊野支店、JAコスモス日高支所、高知県地域産業振興監、日高村産業環境課

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加分の 累計
事業収益総額 (①～③の合計額)					
①飲食提供事業収益 (客単価 800円×利用者)					
②低額宿泊事業収益 (客単価 5,000円×宿泊利用者)	0.00	0.00	1,751.00	906.00	2,657.00
③体験プログラム提供事業収益 (客単価 5,000 円×利用者) (千円)					
新たな体験型プログラムの発掘・ブラッシュアップ (件)	0.00	0.00	5.00	2.00	7.00
学官連携事業 (①～②の合計件数)					
①高知大学を含めた県内大学との企画件数	0.00	0.00	2.00	2.00	4.00
②高知大学を含めた県内大学によるイベント支援数 (件)					

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、日高村が3月末時点の KPI の達成状況を取りまとめて、ホームページで公表する。